

2014年10月9日 全5頁

Indicators Update

8月機械受注

機械受注は持ち直しの動きが続く

エコノミック・インテリジェンス・チーム
エコノミスト 久後 翔太郎

[要約]

- 2014年8月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+4.7%となり、市場コンセンサス（同+0.5%）を大きく上回る結果となった。3ヶ月連続の増加であり、機械受注は持ち直しの動きを続けている。
- 需要者別に受注を見ると、製造業は前月比▲10.8%と3ヶ月ぶりに減少した。ただし、前月に特殊要因とみられる一時的な上振れがあったことが今月の減少の主な要因であり、均してみれば増加基調にある。非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+10.7%と2ヶ月ぶりの増加となった。ヘッドラインの数値は持ち直しの動きを示しているが、幅広い業種で減少しており、力強さには欠ける。
- 外需は前月比+29.1%と増加しており、振れを伴いながらも増加傾向にある。
- 内閣府公表の2014年7-9月期見通しでは、民需（船舶・電力を除く）は前期比+2.9%を見込んでいるが、この数値は、9月に前月比▲4.7%で達成可能。したがって、7-9月期の機械受注は2四半期ぶりの前期比増加となる公算が大きい。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2013年				2014年							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
民需（船電を除く）	▲ 1.1	0.9	6.5	▲ 12.1	8.1	▲ 4.6	19.1	▲ 9.1	▲ 19.5	8.8	3.5	4.7
コンセンサス												0.5
DIR予想												1.3
製造業	2.2	3.4	0.5	▲ 7.8	4.9	▲ 4.6	23.7	▲ 9.4	▲ 18.6	6.7	20.3	▲ 10.8
非製造業（船電を除く）	▲ 3.0	5.6	6.4	▲ 11.5	6.1	▲ 5.1	8.5	0.9	▲ 17.8	4.0	▲ 4.3	10.7
外需	13.6	▲ 13.4	▲ 5.6	3.2	3.7	2.3	3.2	71.3	▲ 45.9	62.8	▲ 42.6	29.1

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府統計、Bloombergより大和総研作成

8月機械受注：持ち直しの動きが続く

2014年8月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+4.7%となり、市場コンセンサス（同+0.5%）を大きく上回る結果となった。3ヶ月連続の増加であり、機械受注は持ち直しの動きを続けている。

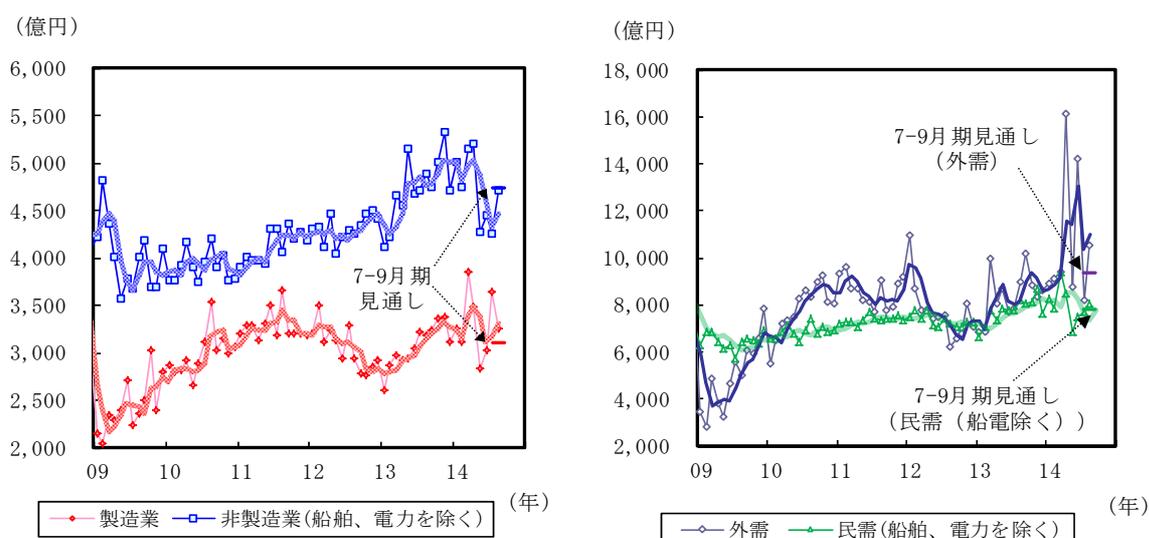
製造業：均せば増加基調を維持

需要者別に受注を見ると、製造業は前月比▲10.8%と3ヶ月ぶりに減少した。ただし、前月に特殊要因とみられる一時的な上振れがあったことが今月の減少の主な要因であり、均してみれば増加基調にある。内訳を見ると、化学工業（同▲50.1%）、石油製品・石炭製品（同▲82.2%）、一般機械（同▲7.6%）の減少が全体を下押しした。化学工業、石油製品・石炭製品については前月に大型案件とみられる一時的な上振れが発生した反動で減少に転じた。一方、パルプ・紙・紙加工品（同+145.6%）、その他輸送用機械（同+43.2%）、非鉄金属（同+48.4%）の増加が全体を下支えした。

非製造業：ヘッドラインは良好も内訳は力強さに欠ける内容

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+10.7%と2ヶ月ぶりの増加となった。ヘッドラインの数値は持ち直しの動きを示しているが、幅広い業種で減少しており、力強さには欠ける。内訳を見ると、リース業（同+219.9%）や建設業（同+12.1%）などの増加が全体を押し上げた。ただし、リース業については大型案件による一時的な上振れの可能性があり、結果は割り引いてみる必要があるだろう。一方、金融業・保険業（同▲19.4%）、通信業（同▲4.7%）、農林漁業（同▲9.0%）などの業種は前月から減少した。

図表2：需要者別機械受注（季節調整値）

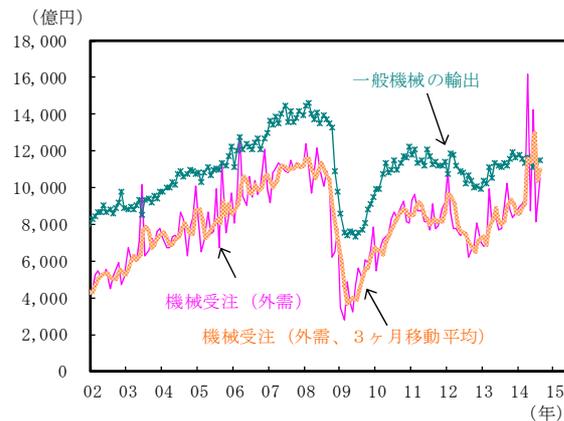


(注) 太線は3ヶ月移動平均線。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

外需：振れを伴いながらも増加傾向

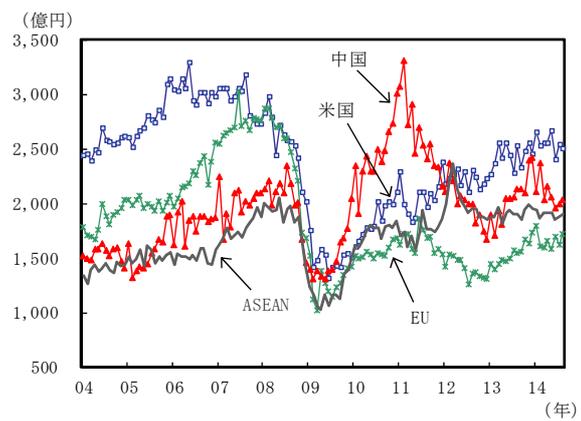
外需は前月比+29.1%と増加しており、振れを伴いながらも増加傾向にある。貿易統計に見る一般機械の輸出金額は2014年初から減速傾向にあるものの、足下での受注の増加傾向に照らすと増加に転じる可能性が高いだろう。

図表3：一般機械の輸出と機械受注の外需



(注) 季節調整は外需は内閣府、一般機械輸出は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

図表4：一般機械の輸出金額（主要国・地域）



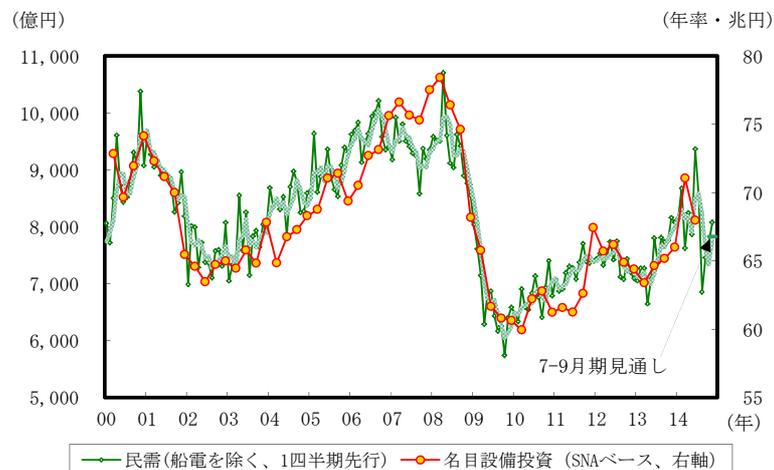
(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

7-9月期の機械受注は2四半期ぶりの増加となる公算

内閣府公表の2014年7-9月期見通しでは、民需（船舶・電力を除く）は前期比+2.9%を見込んでいるが、この数値は、9月に前月比▲4.7%で達成可能。したがって、7-9月期の機械受注は2四半期ぶりの前期比増加となる公算が大きい。

GDP統計の設備投資は4-6月期には前期比減少となったが、設備投資の一致指標である資本財出荷、総供給は足下で持ち直しつつある。先行指標である機械受注は、製造業を中心に持ち直しの動きを見せており、日銀短観などの設備投資計画調査でも、企業の設備投資に対する積極的な姿勢が示されていることから、7-9月期以降、設備投資は増加基調に復するとみている。

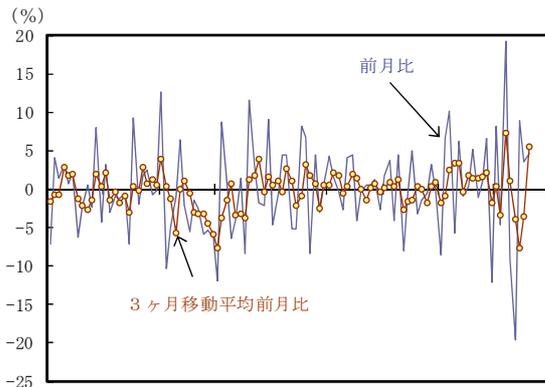
図表5：機械受注の民需と名目設備投資



(注) 太線は3ヶ月移動平均線。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

概況

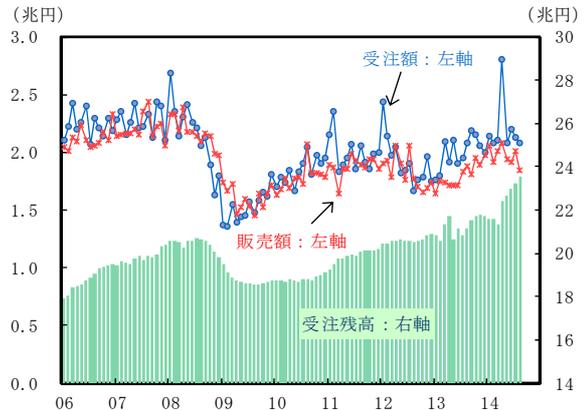
民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）



(出所) 内閣府統計より大和総研作成

(年)

船舶を除く合計（季節調整値）



(年)

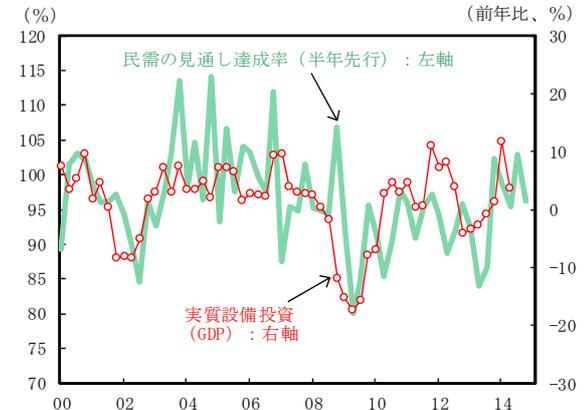
実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）



(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。
(出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

(年)

民需（船舶・電力除く）の達成率と実質設備投資



(年)

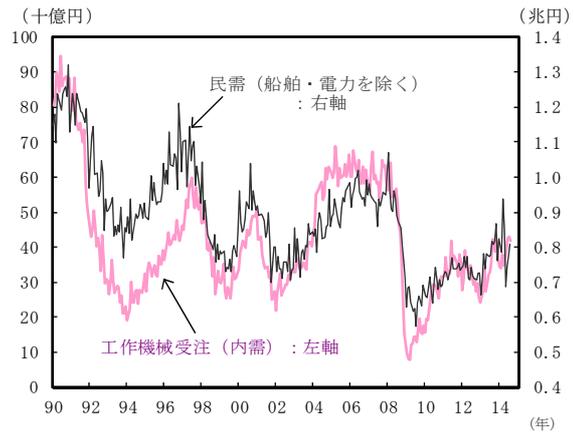
機械受注（季節調整値）と設備判断DI



(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

(年)

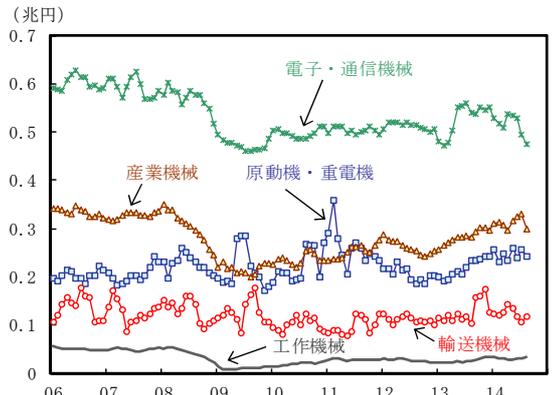
機械受注(季節調整値)と工作機械受注



(年)

機種別と製造業・非製造業の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値） **機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）**

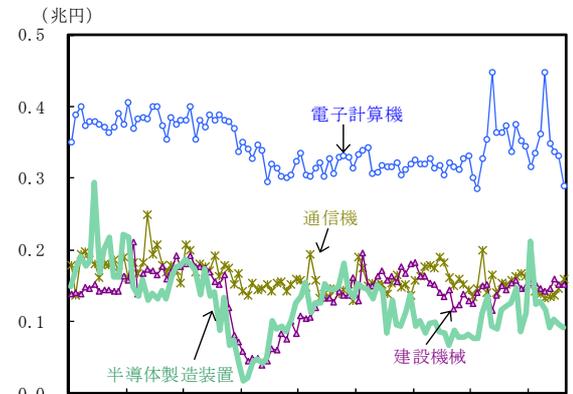
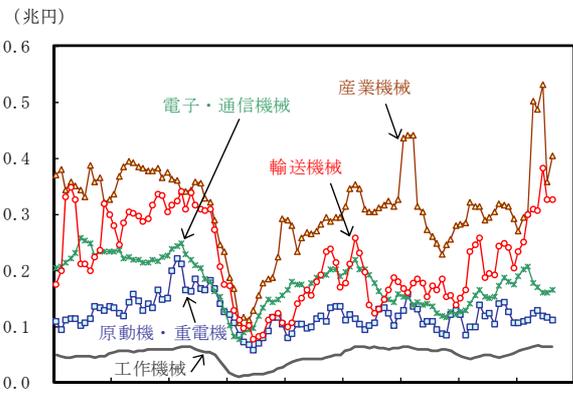


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

(年)

(年)

機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値） **機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）**

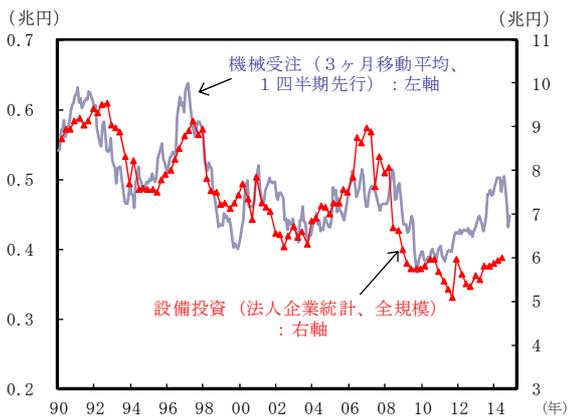
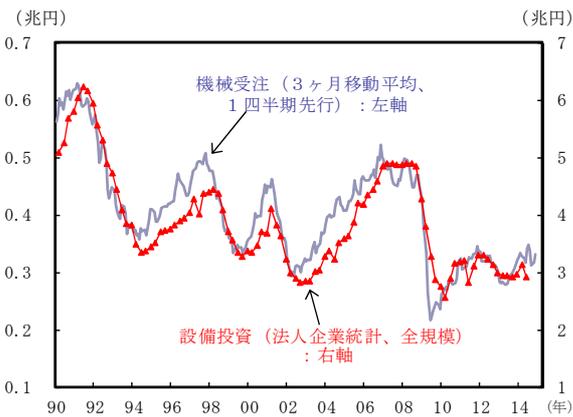


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

(年)

(年)

機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値） **機械受注と設備投資【非製造業（船舶・電力除く）】（季節調整値）**



(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成